

AFICAT ニュースレター(日本第4号)

2022年9月23日発行

第4号ではガーナ、コートジボワールにおける活動について紹介します。ガーナでは6月下旬から活動を開始し、デモンストレーション候補地の視察などを行いました。翌月上旬にはコートジボワールに移動し、政府関係者と AFICAT の立ち上げに向けた協議を行うとともに、現地の圃場、収穫作業、精米所などを見学しました。今回は両国での活動について紹介します。

ガーナでデモの候補地を見学

6/29~7/1 の3日間、ガーナ中央部に位置する Ashanti 州で、州農業局や Bekwai 郡の農業局、クワメ・エンクルマ科学技術大学など今後の連携案を協議し、それぞれが保有する圃場などを視察しました。Ashanti 州では多くの農家が、天水低湿地や天水畑作地で作物を栽培しています。訪問先関係者からは日本企業の製品をデモする際の圃場準備や施設参加者の手配など、協力の約束を得ることができました。



Bekwai 郡農業局が保有するデモ圃場(Asonso 地区)。湧水から引いた小川を利用して灌漑しています。ここでは JICA の技術協力プロジェクトを通じてコメ農家へ技術研修が行われていました。

一方で、首都 Accra 近郊では灌漑地が多く見られます。AFICAT 運営チームはガーナ灌漑開発公社(GIDA)が管轄する Ashaiman 灌漑地区と Kpong 灌漑地区(KIS)を訪問し、圃場や作業場を視察しました。約2,000haの広大な面積を有する KIS は、圃場区画や農道が整備されているため農機のデモや実証のサイトとしてとても魅力的です。AFICAT では企業からの要望に応じて、このような圃場のご紹介や関係機関

との協議の場の設定など、可能な限り本邦企業の皆さまの活動を支援しています。



KIS では約 2,900 軒の農家が営農を行っています。ここでも JICA の技術協力プロジェクトが 2016 年から 2021 年まで実施されました。さらに 2022 年 3 月からは新たに「稲作生産性向上プロジェクト (GRIP)」が後継案件として開始されています。

【ガーナ現地情報#1】

ガーナの農業は全雇用人口の36%、GDPの17%を占める重要セクターです。農地は乾燥したサバンナから多湿な森林地帯まで多様な気候帯に広がっています。中部の Ashanti 州では降雨や湧水を利用した稲作が行われていますが、耕うん機を使った整地作業は全耕作面積の20%に過ぎず、収穫も手作業に依存しています。他方で灌漑地では機械化が進んでおり、耕うん整地にはトラクターや耕うん機が、収穫にはコンバインを使うことが主流です。ただし、機械の台数が不足しており、適期に収穫できないことによる粃の損失が課題となっています。(出所: JICA「[アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査](#)」)

コートジボワールでも実施体制が合意

日本人専門家チームは7月上旬にコートジボワールに移動しました。まずはコートジボワール最大都市の Abidjan で国家農業農村開発省(MEMINADER)やコメセクター開発機構(ADERIZ)といった政府機関と AFICAT の実施・連携体制を合意しました。



PRORIL2 との連携

政府機関との協議後は、コートボワール中央部にある首都 Yamoussoukro に移動し、JICA が実施中の技術協力プロジェクト「国産米振興プロジェクトフェーズ 2」(PRORIL2)の関係者と協議し、近郊にある圃場や精米所を見学しました。PRORIL2 では日本の農業機械を導入し、賃耕・賃刈、各種農作業を請け負うサービスプロバイダーへの操作・メンテナンス研修や、政府職員に対して収穫後処理に関する技術指導などを行っています。導入された機械を継続利用するために、アフリカ各地で問題として挙げられる保守管理の難しさを解決するべく、日々試行錯誤されています。今後 AFICAT 運営チームでは、PRORIL2 が導入した日本製品を活用する様子を取材し、日本のみならず、現地政府機関や販売店など幅広い関係者に向け、各国別ニュースレター(英語版/仏語版)で情報を発信し、本邦企業が有する製品や技術などをアピールする予定です。



PRORIL2 に導入されたヤンマー製耕うん機 YZC-D。ヤンマー製は前後バランスが良く操作しやすいと好評。

クボタ製コンバインの収穫作業を取材しました

7/14 に PRORIL2 の支援対象である農業機械サービスプロバイダーを訪問し、収穫作業の様子を取材しました。このサービスプロバイダーは、60 馬力の中国製トラクターを 2 台、75 馬力のジョンディア製トラクターを 3 台、95 馬力のニューホランド製トラクターを 2 台、クボタの普通型コンバイン(DC70 ホッパ仕様)を 2 台、その他複数の農業機械を保有しています。

クボタのコンバインを購入したきっかけは、収穫作業の様子を見た時に、作業性能や処理能力が中国製のコンバインより良いと判断したからだそうです。



湿田でも軽快・パワフルに作業するクボタコンバイン DC70。

今回訪問したコンバインのオペレーターに対して聞き取りをしましたので、抜粋してご紹介いたします。

Q:クボタ製コンバイン DC70(2 台)はいつ頃購入したのですか？

A:1 台は 1 年前に購入した。もう 1 台はその前に購入した。いずれもローンを組んで購入し、1 台は既に返済が終わっており、もう 1 台は返済中。

Q:年間作業はどのくらいですか？

A:作期は 1 年に 2 回あるため、年 2 回耕うん・収穫作業を行う。1 年前に購入したコンバインは既に 800 時間以上使用している。(実機確認したところ 847 時間でした)

Q:近隣の水稻地は、直播でなく移植がほとんど聞きましたが、それはなぜですか？

A:直播は鳥害を受けやすいし、発芽率も悪い。移植は水管理もしやすいし、密植にならず生育状況をモニタリングしやすい。糸(田植え綱)を引いて条間 25cm、株間 15cm ほどで移植している。

Q:コンバインの 1 日の作業時間はどのくらいですか？

A:移動時間などもあるため、平均すると 5 時間くらい。朝の 9 時頃初めて 18 時頃に終了する。移動時間、作業時間を毎日記録し、1 週間に 1 回、会社へ報告している。

Q:前日に雨が降った場合、次の日に収穫作業は行いますか？

A:朝、田んぼや稲の状態を確認して判断している。その日の天気晴朗だったら 9 時頃作業を始められるが、曇りの場合は 10 時頃から始める。天気、圃場条件、稲の状態をよく観察し、作業できないか判断する。



Q:中止するのはなぜですか？

A:稲が濡れていると、脱穀や選別能力が下がり粉を多く吐き出してしまうため中止することもある。また、乾燥に時間がかかるから。

Q:収穫作業中に気にしていることは何ですか？

A:その時の状態によるが、湿っている場合は高刈りししたり走行速度を遅くしたり、脱穀・選別精度を優先している。晴れている時、よく乾燥している時は低刈り。

Q:コンバインが故障しないために、どのような工夫をしていますか？

A:作業開始前に機械をよく見て回り、問題がないか確認する。エンジンオーバーヒートを防ぐため 1 日の終わりに、エアクリーナー、ラジエター、オイルクーラーをエアブローで掃除している。

Q:中国製のコンバインを使用したことはありますか？

A:中国製を使ったことはないが、欧米ブランドのコンバインのオペレーターを 10 年以上やっていた。

Q:クボタ製コンバインの良いところはなんですか？

A:壊れにくい、具体的に言うと今まで乗った機械に比べてベルトなどが切れにくい。あとは操作性が良い。快適に作業ができる。

Q:困っていることは何かありますか？

A:部品調達が問題だと感じている。ベルトは切れにくいですが、昨年切れてしまった時、調達に時間がかかった。

Q:機械の使い方、メンテナンスなど、どこかで勉強されたのですか？

A:コートジボワールの Bouaké にあった農業機械化センターで講師をしていた。残念ながらそのセンターは内戦の影響で壊されてしまった。そこでの経験を活かし、作業がないオフシーズンなどは機械のメンテナンス、他のオペレーターに指導している。

回答からわかる通り、二期作のためコンバインの年間稼働時間も長くなり、更新サイクルも早いです。また、日本とアフリカは遠く離れていても、オペレーターが注意して作業をしているなど、日本の農家と共通していることが多いということがわかりました。



点検や清掃箇所を教えてくれたコンバインオペレーターのカンガさん。

現地メディアに日本の農機が紹介されました



メディア関係者へヤンマー製コンバイン YH150 の説明を行う JICA 国際協力専門員の大石氏(写真中央)。

7/13~15 にかけて JICA コートジボワール事務所の主催でコートジボワールにおける JICA 事業を紹介するメディアツアーが実施され、現地の TV 局やラジオ局、新聞社などが参加しました。最終日となった 7/15 には PRORIL2 の事務所で、プロジェクトの概要やプロジェクトで導入した日本の農業資機材が紹介されました。ヤンマーの耕うん機、脱穀機、コンバイン、ケツト科学研究所(以下ケツト)の各種水分測定器、サタケの光選別機の機能や性能が説明されました。圃場ではヤンマーの耕うん機による代掻き実演もあり、日本製品の魅力をアピールしました。ツアーの様子は複数の新聞社の紙面で取り上げられ、JICA 支援を通じて日本の農業機械が活用される様子が広く紹介されました。



サタケ光選別機 FMS-2000 を説明する PRORIL2 カウンターパート職員のンデポ氏。



精米業者の方が見せてくれたケツト水分計 Riceter f501

現地の精米所を見学しました

7/18 にコートジボワール北部にある国内第 2 の都市 Bouaké を訪問し、精米所を見学しました。こちらの精米所では中国製の粉摺り精米機が使用されていました。



現地の精米所で多く見られる中国製の粉摺り精米機。

この精米所では PRORIL2 の協力のひとつとして「カイゼン・5S 活動」が紹介され、作業の記録、運営のアドバイス等などが行われました。また、PRORIL2 から農家が持ってきたコメの水分率を測定するよう、ケツトの水分計が提供されたとのことでした。コメの品質管理上、水分率は非常に重要です。アフリカでは籾を噛み、砕けた時の感触で水分を確認していることがほとんどです。この精米業者では、水分計を用いて水分率を測定し、品質管理や取引の際に利用しているとのことでした。

編集後記

今年の 3 月に活動を開始して、タンザニア、ナイジェリア、ガーナ、コートジボワールの 4 カ国で活動が始まりました。気を引き締めて活動を行ってまいります。

新たに AFICAT をご活用いただける本邦企業の方を、随時募集しております。AFICAT にご関心がある方は、お気軽に以下の連絡先にお問い合わせください。

編集・問合せ

(株)かいほつマネジメント・コンサルティング

弓削田・魚住

Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。